

開講年度	令和6年度	開講課程	博士前期課程
授業名	病理病態学特論A		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	基礎教育棟3階講義室2 中講義室304
科目区分	専門科目	配当年次	1年次
必修・選択の別	選択	単位	1単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	分子メカニズム、がん転移、病理学的研究、病理と人工知能、細胞極性、1細胞解析		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	教授 村田晋一、講師 <u>及川恒輔</u> 、講師 中西雅子、助教 松崎生笛、助教 岩元竜太、助教 三笠友理奈	
	薬		
授業の概要	がんを中心とした病理学に関する基礎的知識・研究手法を身につけるとともに、がんの発生・進展、転移の分子メカニズムの解明などの分子病理学的研究、組織・細胞検体を用いた臨床病理学的研究の基礎を修得する。		
到達目標	<input type="checkbox"/> がんを中心とした疾患について細胞機能との関連を理解する。 <input type="checkbox"/> がんについて病理学的な基礎知識を修得する。 <input type="checkbox"/> 病理検体を用いた研究の重要性や活用の方法について修得する。 <input type="checkbox"/> 病理における人工知能の重要性を、臨床・研究双方の側面から理解する。 <input type="checkbox"/> 癌の未分化転化における細胞極性因子の関わりを理解する。 <input type="checkbox"/> 研究手法の一つとして、1細胞解析の方法論を修得する。		
授業計画	<p>1. 病理学的研究手法（村田晋一／1回）【10/9 6限】 病理学的研究手法について解説する。</p> <p>2. 3. 細胞機能と疾患（及川恒輔／2回）【10/16 6限・7限】 がんを中心とした様々な疾患における細胞機能を概説し、そのメカニズムについての理解を深める。</p> <p>4. がんに関する形態学的・分子生物学的な概要（中西雅子／1回）【10/23 6限】</p> <p>5. 転移メカニズムの基礎知識並びに病理学的研究手法（中西雅子／1回） 【10/23 7限】 がんの転移メカニズムについて基礎的な内容を解説する。</p> <p>6. 病理学的研究方法の概説（松崎生笛／1回）【10/30 6限】 病理検体を用いた研究手法についての知識を修得する。</p> <p>7. 人工知能を用いた病理学の基礎と応用（岩元竜太／1回）【11/12 6限】 病理分野における人工知能の応用について、これまでの歴史や実臨床での活用例、具体的な研究例を解説し、理解を深める。</p> <p>8. 1細胞解析を用いた癌微小環境の解明（三笠友理奈／1回）【11/12 7限】 実際に行った1細胞解析や論文で用いられている手法を紹介する。また、この手法を用いて判明した癌微小環境において、悪性腫瘍の転移や浸潤に関わる遺伝子群等の説明をする。</p>		

授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>【教科書】 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>【参考書】 授業計画7 「標準病理学 第6版」 著者：北川昌伸、仁木利郎 出版社：医学書院</p> <p>授業計画8 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p>